

蒼天句会

- 少年のミミズも今も鱗雲
孝志
- 六月の風ワアッリヤ紫雲木
孝志
- 研ぎあげし 出刃の切っ先涼新た
重子
- 肺葉の奥へ 緑が充ちてくる
重子
- 遠雷に 入江の小舟見え隠れ水
静江
- 叢雲のレースに透くる 盆の月
静江
- 糸菜子の 甘味はんがり 春飛す
鎮夫
- 丸十九 朽花情 峠の春生し
鎮夫
- 風薫る 施設を訪うや姉笑めて
久恵
- のぞみ号 黄砂の雲の かかる富士
久恵
- 網を干す 浜に広がる 鱗雲
敏生一
- 薫風や 罌に 積みし古器の山
敏生一

さくひん て
作品には手を触れない
ねが
ようお願いします



作品にはさわらないでね!

